

2019. 11. 4

畑 啓之

時の人、グレタ・トゥーンベリ（環境活動家）の活動は本当に環境的であるのか

日本の江戸時代を考えると、確かに多くの飢饉が発生する極限的な環境であった。だが、少ない資源を有効に活用して高度な文化を醸し出して行く生活の知恵がそこにはあった。

時の人は何を語っているのか？ グレタ・トゥーンベリ（Wikipedia）によると、『『排出量を減らす』という観点から話すことをやめ、『排出を無くす』という観点から考え始める必要がある』である。CO₂の排出をゼロにする。だが、その対案がない表面的な主張であることは否めない。もし対案があるとすると、個々人が無駄なエネルギーを消費することをやめ、豊かな精神世界に生きることである。

なぜ世界はこの少女の意見に注目するのか？ 世界の人々に日本の苦行僧のようになれと言っているのか。ならば環境活動家というよりも新しい宗教の誕生で彼女はその改組である。そして、彼女に月従っている人々はその信者である。この状況は今の私にはまったく理解できない。

下に Wikipedia よりその一部を引用したが、下線を引いた部分などは正に自己矛盾に陥っている。ノーベル賞候補にもノミネートされたようであるが、グレタ・トゥーンベリが表舞台から消える日はそう遠くないのでは、と私は思っている。

グレタ・トゥーンベリ（Wikipedia）

グレタ・エルンマン・トゥーンベリ（2003年1月3日 - ）は、スウェーデンの環境活動家。主に地球温暖化によってもたらされるリスクを訴えている。トゥーンベリは、2018年8月に15歳の時に、スウェーデン語で「気候のための学校ストライキ」と言う看板を掲げて、より強い気候変動対策をスウェーデン議会の外で呼びかけるという学生時代を過ごし始めたことでよく知られるようになった。



2019年8月、トゥーンベリは英国のプリマスから米国のニューヨークまで、ソーラーパネルと水中タービンを備えた60フィートのレーシングヨットで航海して大西洋を渡った。この旅行は信念のデモンストレーションとしてカーボンニュートラルな大西洋横断として発表された。フランス24は、数人の乗組員がヨットをヨーロッパに戻すためにニューヨークに飛行機で飛ぶと報告した。ヨットの共同船長は飛行機でヨーロッパに戻る予定である。